

広島県子育てサポートステーション
いくたす福山／いくたす府中

2015年度(2015.04～2016.03)
活動報告

広島県子育てサポートステーション運営事業
運営:社会福祉法人昌和福社会

<目次>

(1) 広島県子育てサポートステーション事業 概要	・・・2
(2) 広島県子育てサポートステーションいくたす 活動経過	・・・3
(3) 広島県子育てサポートステーション事業 利用状況	・・・4～8
柱①親子のつどうひろば	
柱②子育て相談	
柱③一時預かり	
柱④子育て講座	
(4) 様々な 県関連事業とコラボレーション事業	・・・ 9
(5) いくたすおもちゃ館の取り組み	・・・10～11
(6) 子育て家庭への利用者アンケートの集計からみえること	・・・12～19
(7) 広島県子育てサポートステーションいくたすの成果と課題	・・・20
(8) 子育て支援活動全体における、今後の課題	・・・21

(1) 広島県子育てステーション事業 概要

○子育てサポートステーション いくたす福山

住 所 〒720-8524 広島県福山市入船町3-1-60 イトーヨーカドー福山店内(2F)駐車場完備
連絡先 TEL:084-931-6606 Email: ikutas@urban.ne.jp
スタッフ数 9名 うち常勤スタッフ2名 (※保育士) パートスタッフ7名 (※6名保育士 1名幼稚園教諭)
設 備 面積:約100㎡ トイレ給排水:なし 空調:冷暖房完備 授乳コーナーおむつ交換台完備
事業期間 2010年10月1日～2016年3月31日

○子育てサポートステーション いくたす府中

住 所 〒726-0004 広島県府中市府川町186-1 府中天満屋ソシア内(2F)駐車場完備
連絡先 TEL:0847-45-0822 Email:ikutas02@urban.ne.jp
スタッフ数 6名 うち常勤スタッフ3名 (※2名保育士 1名栄養士) パートスタッフ3名 (※保育士)
設 備 面積:約100㎡ トイレ給排水:なし 空調:冷暖房完備 授乳コーナー完備
事業期間 2011年5月7日～2016年3月31日

☆共通事項 開所時間 10:00～16:30
開所日数 320日
※休館日(第1日曜日、第3日曜日、第3土曜日、年末年始)
研修体制 毎日16:30～16:45(相談内容や運営に関するスタッフミーティング)
自治体主催 各種子育て支援研修への参加
保健師による保健講座への参加 他

(2)広島県子育てサポートステーション いくたす 活動経過

年月日		活動経過	備考	
2010年度	10月 1日	広島県子育てサポートステーションいくたす イトーヨーカドー福山店内(福山市入船町3-1-60)に開設	年中無休	緊急雇用対策事業として
2011年度	5月 7日	広島県子育てサポートステーション「いくたす府中」 府中天満屋ソシア店(府中市府川町186-1)に開設 それに伴い イトーヨーカドー内を「いくたす福山」と改名	年中無休	緊急雇用対策事業として
2012年度	4月 1日	広島県子育てサポートステーション事業として いくたす福山・いくたす府中の運営開始		広島県子育てサポートステーション 事業として
	5月 9日	広島県子育てサポートステーションいくたす福山・府中内で 就労支援活動開始(福山 府中)	福山: 毎週水曜日個別相談 年6回グループワーク 府中: 年2回グループワーク	女性の就業相談(広島県産業人材課)として 事業者(株)東京リーガルマインド広島校が県より 受託
	8月24,25日	第1回 備後地域の子育て支援活動従事者の研修会 実施	34施設 137名参加(2日間延べ)	
	2月1, 2日	第2回 備後地域の子育て支援活動従事者の研修会 実施	24施設 115名参加(2日間延べ)	
2013年度	5月 30日	広島県子育てサポートステーションいくたす福山・府中内で 就労支援活動開始(福山 府中)	福山: 年5回グループワーク 府中: 年2回グループワーク	女性の就業相談(広島県産業人材課)として 事業者(株)東京リーガルマインド広島校が県より 受託
	9月 7日	第3回 備後地域の子育て支援活動従事者の研修会 実施	22施設 57名参加	
	11/20~ 12/18	第1回 子育て支援施設実践交流会 実施	17施設 34名参加	7施設(7日間)施設協力
	3月 1日	第4回 備後地域の子育て支援活動従事者の研修会 実施	16施設 33名参加	
2014年度	4月 1日	いくたす福山 いくたす府中開所日数の変更	月3日の休館日の設定	第1・3日曜日、第3土曜日
	6月 25日	就労支援活動開始(福山) 同年度末終了	年10回個人相談(福山のみ)	「わーくわくママサポートコーナー」出張相談 (広島県働く女性応援働く女性応援プロジェクト・チーム)として 事業者Pasonaが県より受託
	8月 30日	第5回 備後地域の子育て支援活動従事者の研修会	30施設 78名参加	
	11/6~21	第2回 子育て支援施設実践交流会 実施	13施設 52名参加	6施設(6日間)施設協力
	12月 19日	マザーズワーク内での相談開始に伴い就労支援活動終了(福山)		1月より、ハローワーク「マザーズワーク」内 にて相談業務開始(pasona)
	1月 24日	第6回 備後地域の子育て支援活動従事者の研修会	19施設 42名参加	
2015年度	4月 1日~			
	3月 31日	事業終了		

(3) 広島県子育てサポートステーション事業 内容

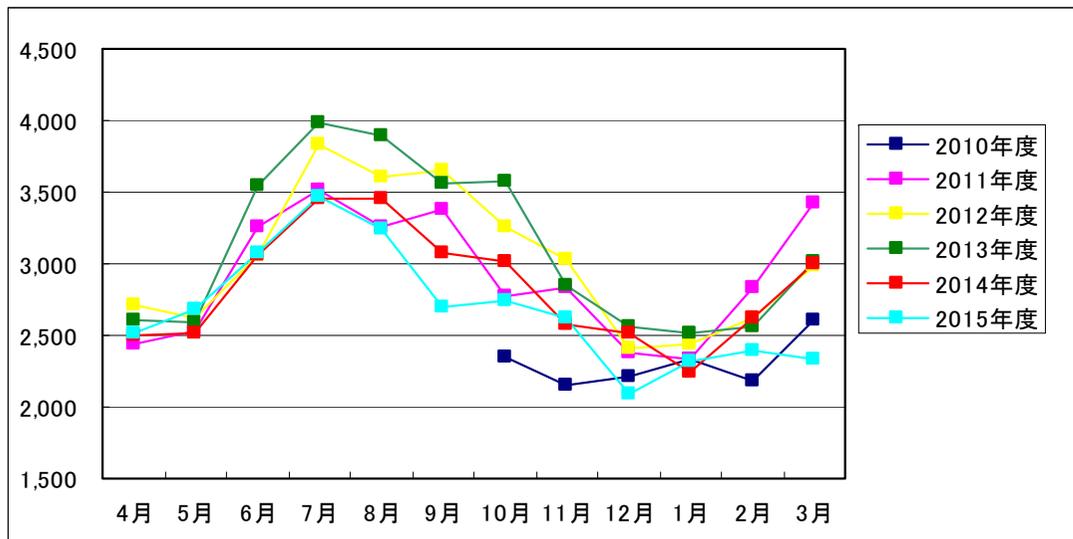
柱① 親子のつどうひろば 利用状況

● いくたす福山

年度	期間	利用者総数	利用組数	1日平均利用者数	新規登録組数	1日平均登録組数
2010	(2010年10月1日～2011年3月31日)	13,847	5,790	78	1,641	9
2011	(2011年4月1日～2012年3月31日)	34,964	15,358	97	1,927	5
2012	(2012年4月1日～2013年3月31日)	36,236	15,824	100	1,696	5
2013	(2013年4月1日～2014年3月31日)	37,275	16,110	105	1,475	4
2014	(2014年4月1日～2015年3月31日)	34,030	14,654	106	1,227	4
2015	(2015年4月1日～2016年3月31日)	32,183	14,054	99	1,199	4
総合計		188,535	81,790	98	9,165	5

曜日	2010	2011	2012	2013	2014	2015
日	803	2373	2590	2902	1641	1424
月	1026	2405	2585	2844	2667	2678
火	1030	2605	2904	2938	2994	2563
水	1079	2800	2781	2951	2765	2851
木	1076	2792	2917	2693	2875	2662
金	1101	2774	2923	2977	3005	2936
土	905	2379	2461	2434	2007	1802

2014年度以降は、土曜日月1日、日曜日月2日が休館日。



<傾向>

9、10月の利用減少が著しかった。伝染病の流行や講座等の組み方に変化はなく、自然現象と考えられる。9月は夏休み明けでもあり、月の初めはとても利用が少なかった事から家庭でゆっくり過ごす事も多かったのではないかと推察される。

曜日別利用では、前年と同様に金曜日と水曜日の利用が多く、月、木曜日が続いて多い。月曜日は福山市内のキッズコムが休館日でもあり、利用する親子が多い事が保護者からの話で判明した。

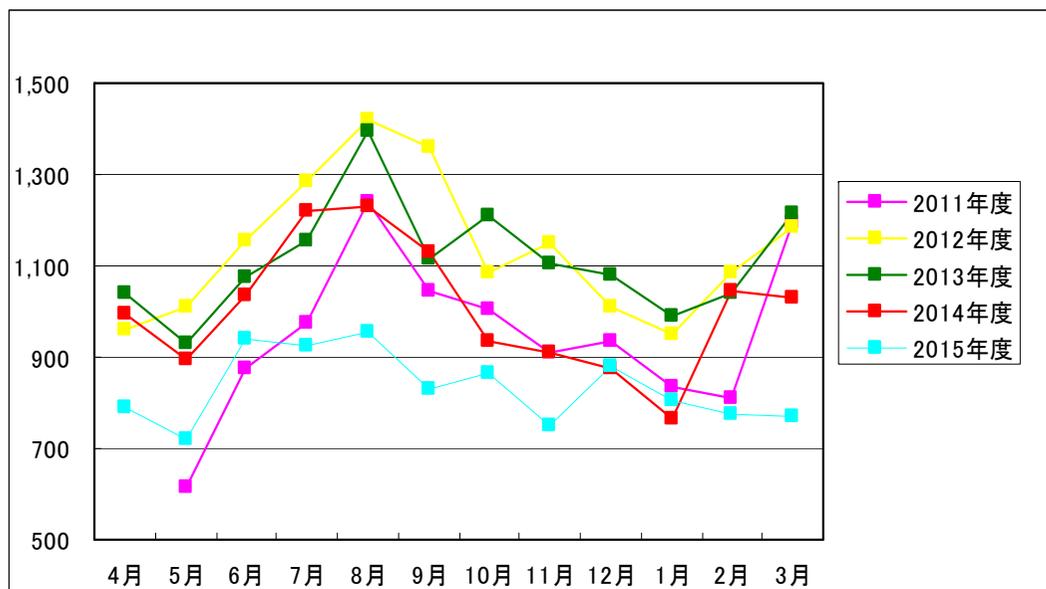
1日の平均利用は微減ではあるが、新規登録についてはそれほど変化は見られない。

● いくたす府中

年度	期間	利用者総数	利用組数	1日平均利用者数	新規登録組数	1日平均登録組数
2011	(2011年5月7日～2012年3月31日)	10,433	4,318	32	620	2
2012	(2012年4月1日～2013年3月31日)	13,657	5,803	38	411	1
2013	(2013年4月1日～2014年3月31日)	13,291	5,427	37	350	1
2014	(2014年4月1日～2015年3月31日)	12,063	4,066	37	259	1
2015	(2015年4月1日～2016年3月31日)	10,002	4,283	32	237	1
総合計		59,446	23,897	35	1,877	1

曜日	2011	2012	2013	2014	2015
日	809	1214	1133	669	411
月	769	1059	1058	1038	818
火	976	878	992	1020	807
水	679	925	933	779	769
木	769	1012	1195	1086	935
金	794	1104	948	1000	916
土	797	940	908	800	666

2014年度以降は、土曜日月1日、日曜日月2日が休館日。



<傾向>

例年多く利用がある夏休みの利用組数が今年度はあまり伸びず、9～11月にかけてかなり伸び悩んだ。講座の組み方などかえていないが講座内容に関しては予約の必要のない講座の数が減っている。講座数の減少に比例して利用が減少したのは、自由あそび以外の利用目的を持った保護者が多いのではないかと。子育て支援施設に親子共に何かの楽しみを期待しているのかも知れない。

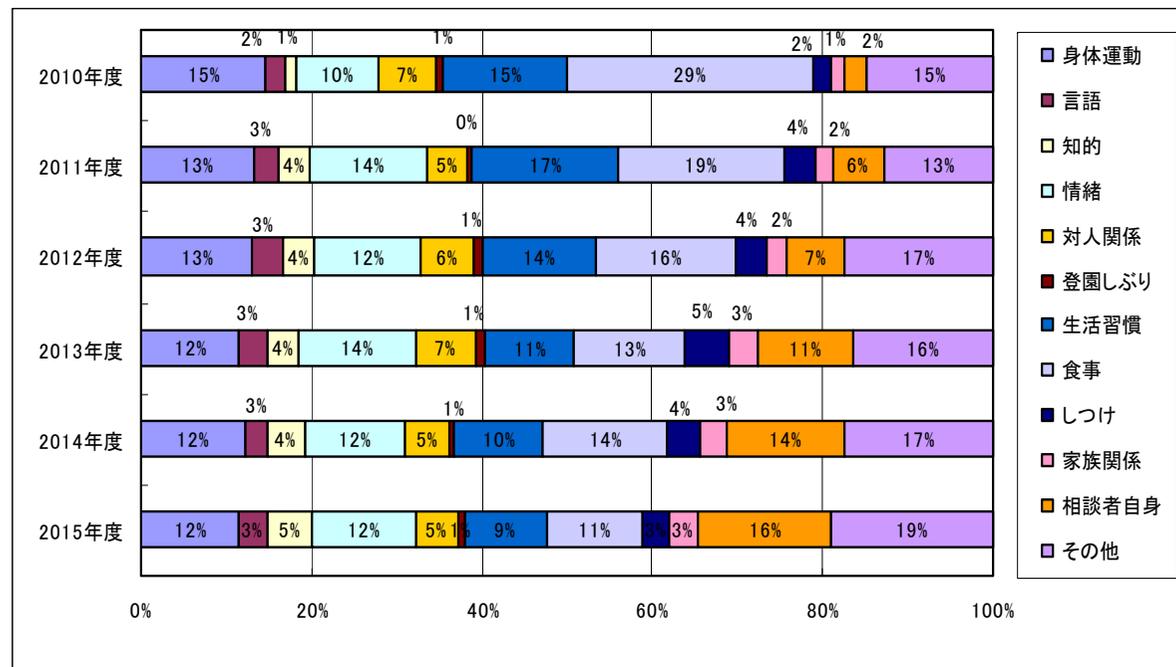
曜日別利用については前年と同じような傾向で、木曜日が一番多く、次いで金曜日である。木曜日は府中市内のPOMが休館日であることが影響していると考えられる。

福山、府中共に金曜日の利用が高いのは一週間の親子での過ごし方に共通の意識が働いているのかも知れない。

柱② 子育て相談

いくたす福山			
年度	期間(月)	件数	月平均
2010	5	1,872	374
2011	12	6,237	520
2012	12	4,125	344
2013	12	5,673	473
2014	12	6,350	529
2015	12	7,619	635
合計	65	31,876	479

いくたす府中			
年度	期間(月)	件数	月平均
2011	11	3,051	277
2012	12	3,284	274
2013	12	5,704	475
2014	12	3,942	329
2015	12	4,090	341
合計	59	20,071	339



<傾向>

- ・食事については不安が年々減少。相談内容としては一番ポピュラーな話題で、初めて会った人でも話しやすい内容だと考えられる。人に話す事によって不安が軽減されたのかも知れない。
- ・運動、言語、知的、情緒、対人関係、登所しぶりについては、この五年半の間ほとんど変わらず推移している。また、その他についてもほぼ数字は変わらず、その内容のほとんどは病気についてと、保育所幼稚園についての相談である。特に今年度は後半になって、子ども子育て支援新制度施行に伴い、認定こども園の増加と地域型保育施設の新設などがあり、相談件数が増えた。幼稚園の入園申込がひと段落した2月に、2016年度の認定こども園の決定がおりたので、いくたす内に詳しく掲示したところ、それについての相談件数が飛躍的に増加した。

<課題>

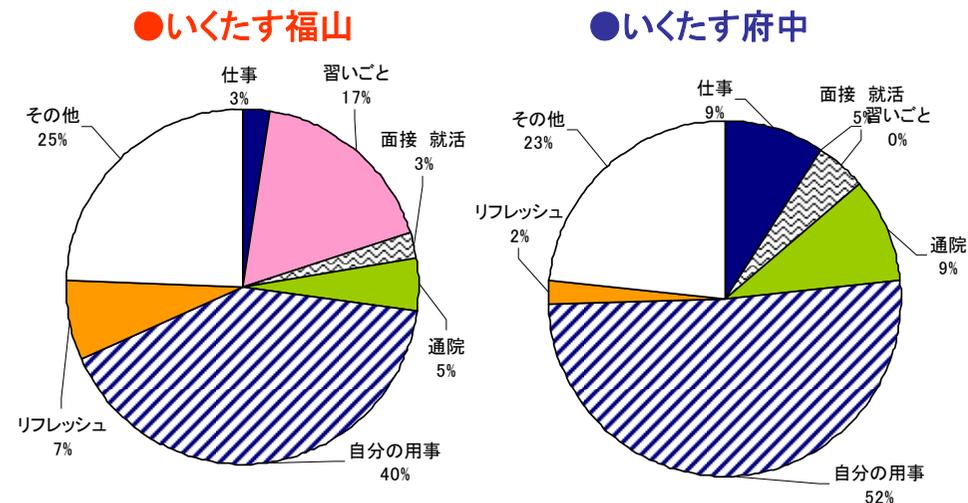
- 積極的に子ども・子育て支援新制度に関連する記事や事象など、今後、保護者自身に必ず役立つ内容を積極的に啓発する。
- スタッフへの相談と、委託保健師への相談へのアフターフォローが十分できていない。系統だてた管理のもとに行う。
- 他の専門機関との連携を引き続きとる。今後、利用者支援事業につながる様早めに行動をとる。
- 相談内容については、個々のスタッフの力量や保護者との密な関係から内容は変わってくる。事業が終了した後の対応について早急に検討する。

柱③ 一時預かり

いくたす福山						
年度	期間(月)	人数	月平均	1時間	2時間	3時間
2010	6	185	31	138	47	
2011	12	345	29	196	149	
2012	12	531	44	254	257	20
2013	12	225	19	144	62	19
2014	12	282	24	218	57	7
2015	12	155	13	112	38	5
合計	66	1723	27	1062	610	51

いくたす府中						
年度	期間(月)	人数	月平均	1時間	2時間	3時間
2011	11	345	31	60	58	
2012	12	171	14	66	58	47
2013	12	116	10	46	41	29
2014	12	85	7	56	26	3
2015	12	43	4	30	10	3
合計	59	533	13	258	193	82

<一時預かり 利用理由>



<傾向>

福山・府中共に2015年度の一時預かりの利用減が著しい。保護者が利用する理由としては、自分の用事が半数を占め、普段子どもと一緒にできない自分の買い物や進物品、理美容の時間に費やす事が多いようだ。また、その次に預かりのお試しをする人が1割強あり、保護者からも今後の入園に向けて少しずつ慣らしたいという声も聞かれる。

短時間利用で店内での用事がほとんどのため、自分だけの時間となり、将来その時間を長く伸ばすためにも1時間からの利用が気軽に利用される要因と思われる。

親子でいくたすで遊んだ後の買い物は、スムーズであるという声も多く聞かれ、子どもが満足すれば短時間で買物を済ませる事が出来るという事かもしれない。

その意味でも、保育所での一時預かりといくたすでの預かりでは、その目的がかなり違っているのがわかる。

<課題と成果>

○自身の時間を持つためには一時預かりだけが方法ではなく、規則正しい生活を送る事の中に、子育て支援施設を含めて親子でしっかり遊びこむ事で午睡等のリズムの改善がなされ、保護者自身の時間の使い方が有効となる事を理解している。その上で、一時預かりに対しての目的意識をはっきりもっている。

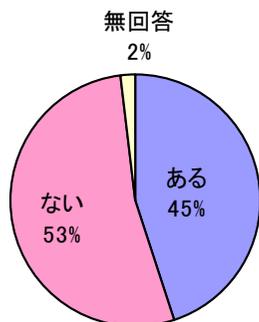
○子どもの年齢や地域によっては、入園問題と共に一時預かりも困難な事態が起こっている。いつも即対応できるわけではないが、急な用事の時にもいくたすでは柔軟に対応出来た。また、市外の方へ向けての対応ができ良かった。

○母親一人になり、自分を取り戻す時間確保の為に、一時預かり以外のさまざまな取り組みを考えたい。

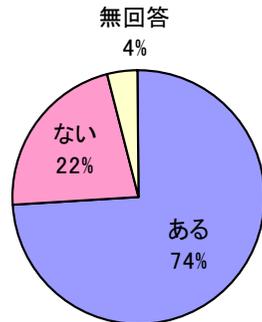
柱④ 子育て講座

<講座の参加経験>

●いくたす福山



●いくたす府中



<参加したことのある講座(利用者アンケートより算出)>

福山・府中共通	いくたす福山のみ	いくたす府中のみ	いくたす以外
年齢別(0歳・1歳)	双子	ベビーマッサージ	子育て連続講座(年齢別)
誕生日会	親子3日体操(2010~2011)	ウキウキタイム(歌・おはなし等)	お味噌でクッキング
季節のある製作	薬の飲ませ方(保護者協力講座)	まねっこ体操	
ママのおはなしタイム(親プロ)		ママストレッチ	

<2010年10月~2016年3月まで実施した講座(のべ)>

いくたす福山 … 948回(33119人参加)

いくたす府中 … 841回(19580人参加)

<参加した保護者の主な意見>

- ・子どもとのふれあい方、コツのようなものがわかった。
- ・たくさんの保護者と話をする事が出来た。
- ・家でも一緒にできそうな事をおしえてもらえるのでうれしい。
- ・子どもと一緒に動けてよかった。
- ・季節を感じられる製作は家で飾ってあげられるのでうれしかった
- ・双子ちゃんと会える機会が少ないのでありがたかった。
- ・同じ人と何度も顔を合わせるの、仲良くなり話しやすかった。
- ・発育計測、手型等子どもの成長がみれて良かった。 ..等々

<分析>

事業の一つとして子育て講座を、月6~7回設けている。福山より、府中の方が参加率が高い事が分かる。これは、事業開始当初から変わらない利用傾向である。府中は、講座参加者について制限をせず、予約が必要ない講座を数多く設けて、利用者が増えてきた経緯があり、子育て講座への参加が定着した要因とも思われる。また、講座参加者は繰り返し参加される事から、講座を楽しみに利用されている事が良くわかる結果であろう。

福山では、子育て支援施設が数多くあるうえ公民館やコミュニティセンターでの市主催の講座等が充実しており、さまざまな場所や内容から参加したいものを選んで参加しているともいえ、利用についても分散化しているのではないかと。

講座参加者については、一度参加すると続けて予約参加される実態がある。特に年齢別講座についてはそれが顕著である。

<課題>

○講座を希望していても、受け入れ組数を決めているために予約できなかつたり、最初から予約をあきらめているとの声もきかれる。希望する方全てに対応できる様にするには、まだ課題は大きい。

○福山、府中共に講座などのプログラム参加よりも、自由に遊ぶ事や講座等の決まったプログラムへの参加が苦手な子どもにとってはフリーな時間を求められる。バランスをとりながら、さまざまな考えの親子に対応できる様プログラムする必要がある。

○外部の講師による子育て講座を組む事で、保護者がより専門的な内容に触れる事が出来る機会を作りたい。

○講座の内容は、ほとんどスタッフが立案する。

外部の保育研修参加により、実際の保育現場での実務経験で様々な子どもの姿を知った上での遊びの内容や保護者に対する配慮点などを研修する事で、個々のスキルアップができる体制作りが必要。

(4) 様々な団体とのコラボレーション(協働)事業

<広島県 関連事業>

●行政とのコラボレーション

「親の力」を学びあうプログラム(親プロ) <無料>

(広島県教育委員会 広島県立生涯学習センター)

広島県立生涯学習センター作成のプログラム29このうち、未就学児の子育て家庭に適した教材で実施。内容によっては子どもの年齢を指定して実施した。

参加人数

	2010	2011	2012	2013	2014	2015
4月	—	—	11	5	6	—
5月	—	—	6	4	4	8
6月	—	—	8	3	4	6
7月	—	—	8	4(父)	5	2
8月	—	—	8	3	4	6
9月	—	—	5	5	5	4
10月	—	—	9	6	5	2
11月	—	—	5	5	6	5
12月	—	—	4	6	2	1
1月	—	—	8(父)	4	8	5
2月	—	5	5	2(父)	2(父)	2
3月	—	8	2	6	4	—

教材内容

教材内容	回数	参加人数 (平均参加人数)
おひざにだっこでおはなししましょう	4	13(3.2)
〇〇ちゃんがする	7	42(6)
私の時間子どもの時間	11	62(5.6)
ワイワイキヤーキヤー(子どもと遊び)	8	50(6.2)
おつきあいて難しい	7	26(3.7)
出産ははじめの第一歩(マタニティ対象)	3	10(3.3)
買って買って(2歳児対象)	4	22(5.5)
お父さんの子育てトーク(父親対象)	4	16(4)

2011年2月～2016年2月まで実施した教材についてまとめた。

●成果

○親プロの「参加者は平等」「人の発言を肯定」「秘密の保守」3つの約束は、子育て支援者として支援に対する基本でもあった。この事業を通して保護者は、人(子どもや家族)の話しを聞く事と、他人の意見を聞く事により自分の子育て観を見直すきっかけとなった。

○広島県の事業の一つを県民に知らせる事が出来た。

○保護者同士、ゆっくり語り合う機会が少ない為、子どもをスタッフが見守った事により親自身が自分についてじっくり考える機会となった。

○父親、マタニティ対象など幅広く対象者を設定し、県内でもあまり実践できていないプログラムについても実績が残せた。

(5) いくたす子どもおもちゃ館へのとりくみ

① 木育へのとりくみ(いくたす府中)

● 木育とは・・

「子どもをはじめとするすべての人びとが、
木とふれあい、木に学び、木と生きる」とりくみ。

● 傾向

いくたすは就園前の子どもとの利用が多い中、就園・就学を問わない幅広い年齢の子どもが参加できる講座として、昨年度から土日に開催している。毎回楽しみに利用されている方、就園・就学児と家族で参加される方も多く、いくたす府中の木育活動が定着した。

子どもだけでなく大人にとっても、積木やカプラでの製作は魅力的であり、また遊びたいという声もたかい。積み上げ、壊し、また積み上げる、繰り返し遊ぶことや積み上げた高さや崩れる音、造形美は、木製以外のおもちゃでは味わえない楽しみである。家族や友だちと触れ合い、笑顔や歓声のあがる時間となっている。

● 成果と課題

○木育活動を通して、子どもの玩具の素材について考える機会となり、自然の素材の良さを遊びながら実感していただく事ができた。

○親子の遊びのみにせず、スタッフ自身も楽しむなかで木を使った様々な遊びを提案できた。

○まだまだ府中市内での認知度が低い。遊びの展開方法の工夫、市内での積極的なイベント開催を通して活動回数を増やし、幅広く普及させる工夫が必要であった。

POMIにも多くの木の遊具があり、今後は他の子育て施設とのコラボ企画などを実践すると、より地域性のある活動になるのではないかと。

● 活動の経過

2012	7	林野庁補助事業「赤ちゃん木育広場・赤ちゃん木育寺子屋」事業参加申請			
	9	「赤ちゃん木育広場・赤ちゃん木育寺子屋」事業 認定をうけ、日本グッドトイ委員会より、木の玩具を貸与			
	10	「木育」活動開始 ウッドアリーナ(産業メッセ)	72	31	41
	11	府中ノアンテナ主催 木育プロジェクト会議参加			
	12	府中ノアンテナ いくたす府中(毎月開催 計5回)	40	15	25
			181	86	95
2013	11	「木育キャラバン(移動型玩具美術館)」活動協力			
	5	ウッドアリーナ(学びフェスタ)(2日間) いくたす府中(計11回)	200		
			434	214	220
2014	4	NPO法人府中ノアンテナより積み木を贈与 いくたす府中(計12回)			
			512	241	269
2015	4	いくたす府中	26	12	14
	5	〃	35	15	20
	6	〃	37	15	22
	7	〃	38	16	22
	8	〃	36	17	19
	9	〃	20	9	11
	10	〃	29	14	15
	11	〃	26	11	15
	12	〃	50	22	28
	1	〃	30	13	17
	2	〃	60	25	35
	3	〃	35	14	21



②玩具の貸出(いくたす福山のみ)

<目的>

おもちゃを使って家族間であそぶなかで、家族のあたたかいふれあいの時間をもつことによりコミュニケーションのきっかけづくりを援助する。それぞれのおもちゃの対象年齢を知り、子どもの発育発達に対し専門的に助言する。

<利用の決まり>

- ◆貸出期間 : 1週間以内
- ◆貸出個数 : 1家族 1種類まで
- ◆貸出料金 : 無料

<貸出玩具>

マグフォーマー、木のパズル、手作り玩具 など7種、12セット

● 利用状況 (2015/4/1~2016/3/5)

曜日	貸出割合(%)
日	20
月	15
火	17
水	16
木	14
金	11
土	7

	貸し出し総数
4月	21
5月	27
6月	21
7月	29
8月	25
9月	25
10月	20
11月	15
12月	18
1月	12
2月	11
3月	5
総合計	229

<傾向>

玩具を借りる家族は、だいたい固定化されつつあった。また、同じ玩具を繰り返し借りる傾向も強い。親子で遊ぶ事で、親子のつながりが深まったと言われる声も多かった。

<成果>

家庭ではなかなか買わない玩具に触れる事が出来た。また、手作りおもちゃについても喜ばれたが、衛生管理の方法について課題が残った。

③絵本の貸出

<目的>

家族のコミュニケーションツールの一つとして様々な形で絵本を紹介し、絵本を通して子どもとのふれあう時間をもてるように援助する。

<利用の決まり>

- ◆貸出期間 : 2週間以内
- ◆貸出個数 : 1家族 3冊まで
- ◆貸出料金 : 無料

曜日	貸出割合(%)
日	4
月	16
火	19
水	15
木	14
金	20
土	12

	貸し出し総数
4月	96
5月	97
6月	124
7月	127
8月	107
9月	87
10月	144
11月	118
12月	126
1月	117
2月	136
3月	18
総合計	1297

<傾向>

絵本を借りる親子についても固定化されつつあった。これは、玩具を借りる家庭との共通性は見られない。いくたす内で絵本を親子でよく読まれる方は貸出率が高い傾向にある。また、家庭で読む事はなくても、持って帰る事を楽しみにする姿も多く見られた。低年齢児は同じ本を繰り返し借り、年齢が高くなると様々な本を選ぶ傾向がみられた。

<成果>

いくたす内で過ごされる時にも、読み聞かせをする多くの親子があった。親プロで絵本のよみきかせについて考えたり、いくたす通信でも絵本の紹介などをし、絵本を通して情緒を豊かにする事や、親子の絆づくりにも成果があった。今後も絵本の充実を図りながら伝えていきたい。

(6) 2015年度定例利用者アンケートの集計から見えること

アンケート実施期間: 2016年2月

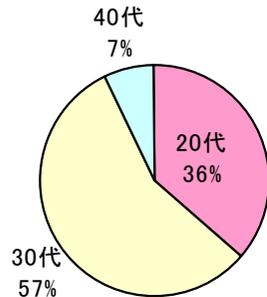
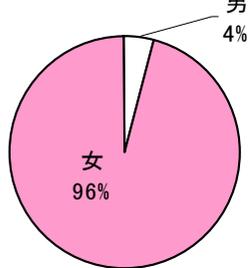
対象者: **いくたす福山**利用者 100名 **いくたす府中**利用者 50名

<毎回共通の基本項目>

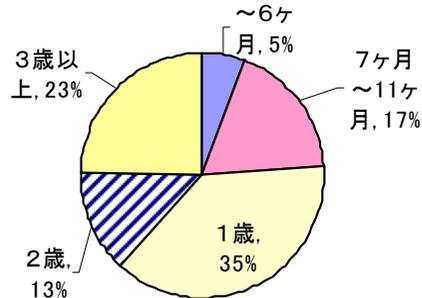
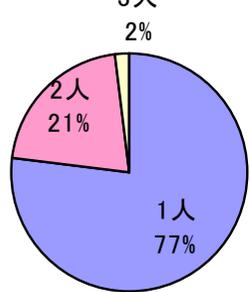
①回答者について

●いくたす福山

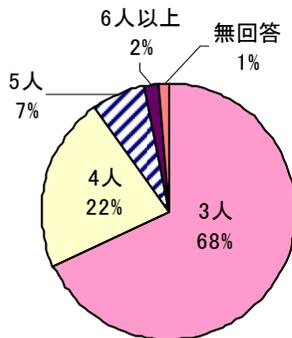
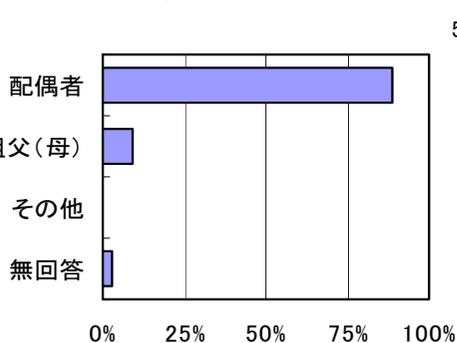
Q、自身の性別、年齢



Q、子どもの人数、年齢

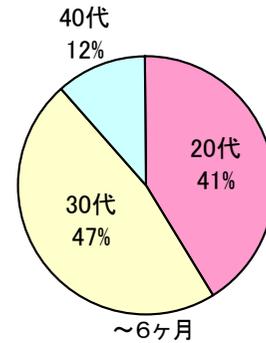
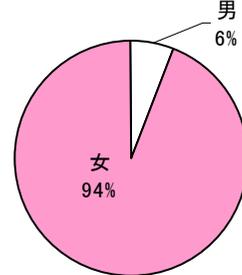


Q、家族構成

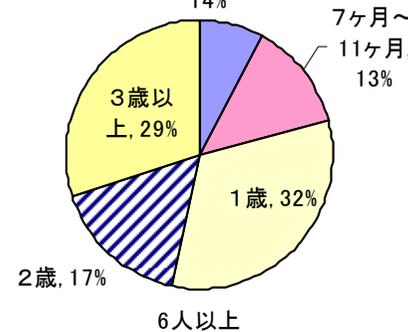
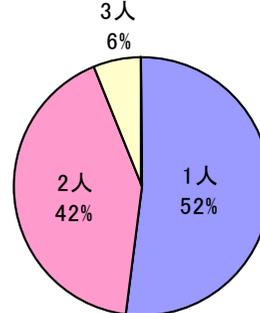


●いくたす府中

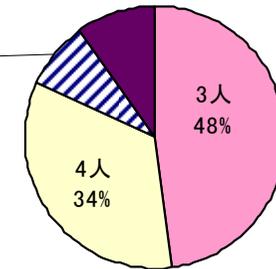
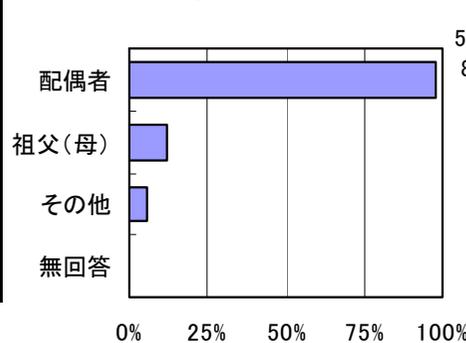
Q、自身の性別、年齢



Q、子どもの人数、年齢



Q、家族構成



<分析>

利用の親子の姿として、保護者の年齢や子どもの年齢については地域差は見られない。

福山は、子ども一人家庭の利用率が高くなっている。アンケートを取ったのが、ほとんど平日でもあり、家庭で子育てされている方が多かった事と、保育環境の充実から、子どもが少し大きくなったら母親も就労する事が多くなるともとれる。

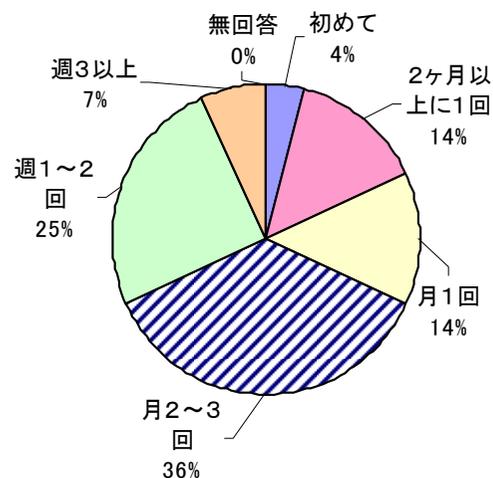
今回配偶者について、チェックがしていない人が今までより明らかに増加。その半数が祖父母と同居していた。

府中については、同居率は今回は1割であったが、中には10人家族もあり、福山よりも同居率は高かった。子どもの年齢には福山とあまり違いは見られないが、利用家庭の子ども的人数に明らかな違いがみられ、母親の就労に対する意識の違いが垣間見れるのではないかと。

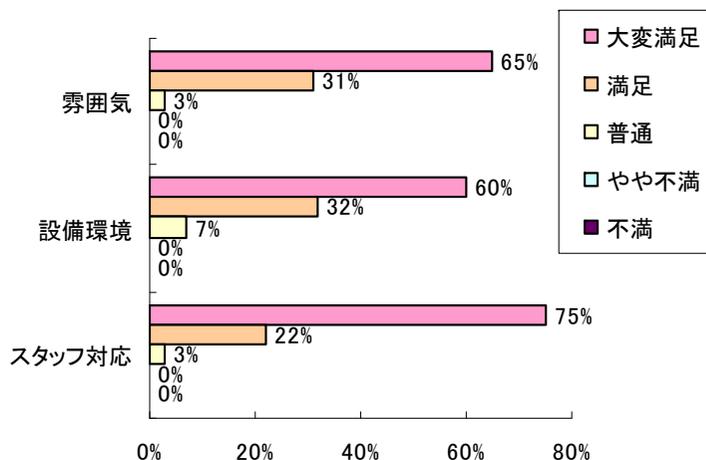
②利用状況

●いくたす福山

Q、いくたすの利用頻度



Q、いくたすを利用しての感想



<分析>

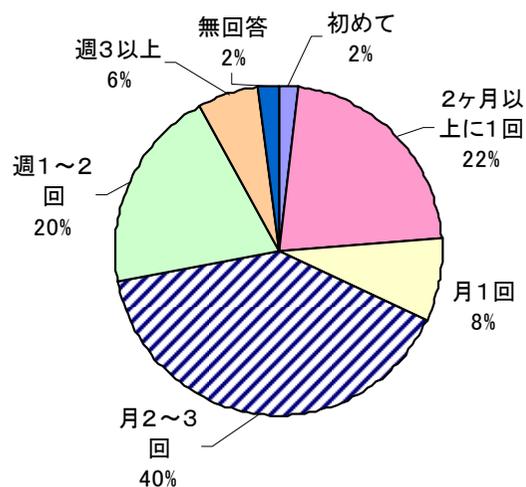
いくたすの利用頻度については、週3回以上の利用頻度の高い家庭の割合については、福山、府中共にあまり差は見られない。週1~2回、月2~3回を合わせると福山・府中どちらも6割であり、こちらも差がみられない。

利用しての感想についても大まかに満足していただいている。

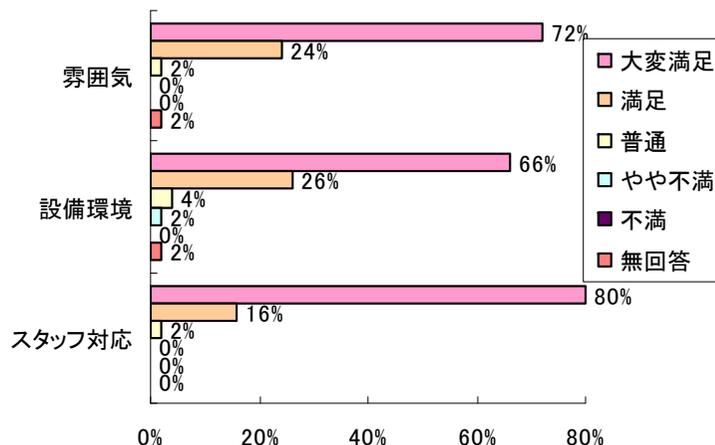
地域子育て支援センターについては、福山市、府中市ともに保育所併設型がほとんどであるが、保育所の生活パターンの影響からか、親子のほとんどが午前利用に偏る傾向にある。

●いくたす府中

Q、いくたすの利用頻度



Q、いくたすを利用しての感想



未就園児については、望ましい生活のリズムがあるものの、個々の家庭でそれぞれの生活のリズムがあり、子どももそれに合わせる形となる。

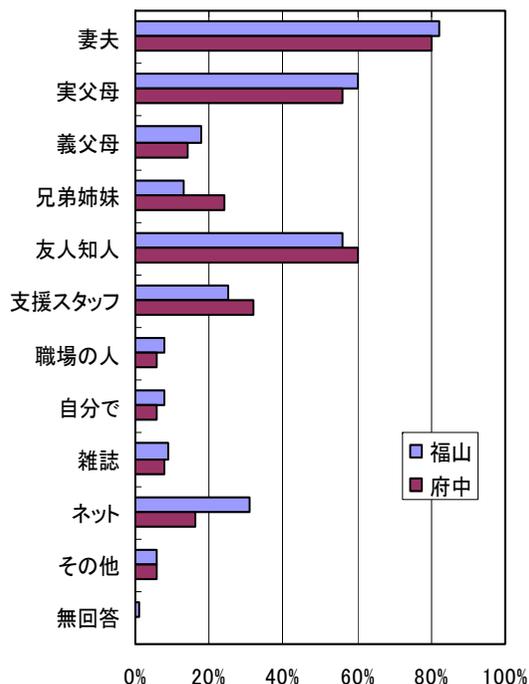
商業施設内という特徴から時間を気にする事がなく、子どもの生活パターンに合わせて気軽に利用できるのが、保護者にとって一番利用しやすいようだ。

現在は16:30で閉館しているが、夕方までの開館をのぞむ声も多い。

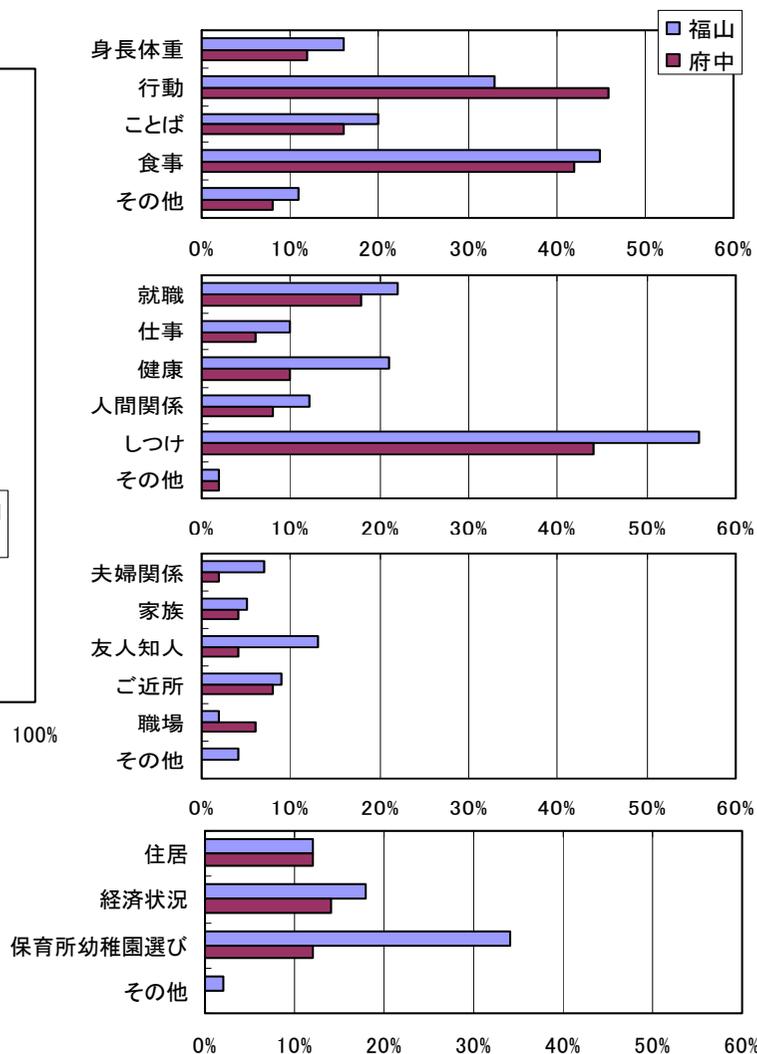
<特別項目>

①悩み

Q、誰に相談するか（複数回答）
＜子育ての悩み＞



Q、どのような悩みか（複数回答）



<分析>

今回は、子どもについての悩みのみ、相談する相手について尋ねた。やはり、一番身近な配偶者が一番多く、次いで実父母、友人知人と続く。

福山と府中の地域差が出たのは、インターネットの利用についてである。福山は、ネット利用が3割に達し、第4位となっている。

福山市は子育て支援施設が多く、スタッフも多く配置しているにもかかわらず、支援スタッフへの相談の割合はその次である。

反対に、府中はネット利用の割合は前回より下がり、家族や知人との話の中で解決していると共に子育て支援スタッフへの相談の割合が3割を超える。子育て支援の方法や、人との関わりの密度の違いなど、検証が必要と思われる。

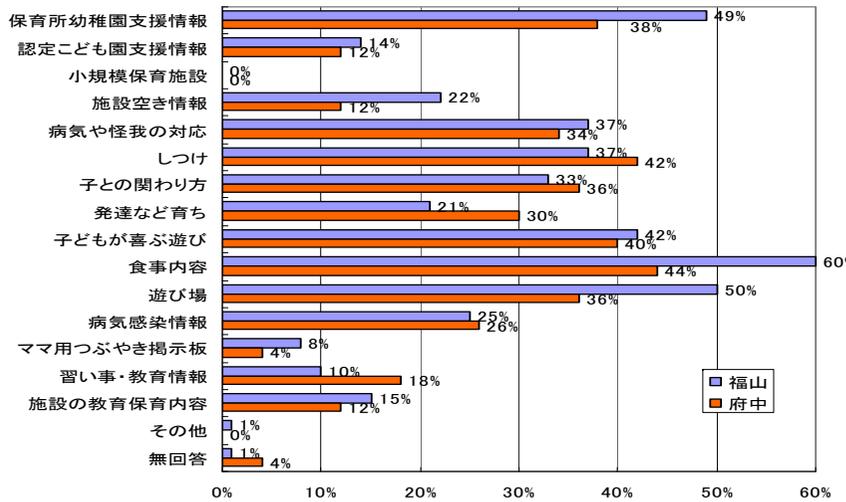
悩みの内容については地域差はほとんど見られない。0～2歳の利用が8割を占めるいくたすでは、集団に入るまでに『きちんと』育てたいと考える親心から、「しつけ」について一番悩まれる。

自分の考えでいいのか、どのような誉め方、叱り方をしたらいいのか、いくたす内でも多くの相談が上がり、保護者同士の話題の中心にもなっている。

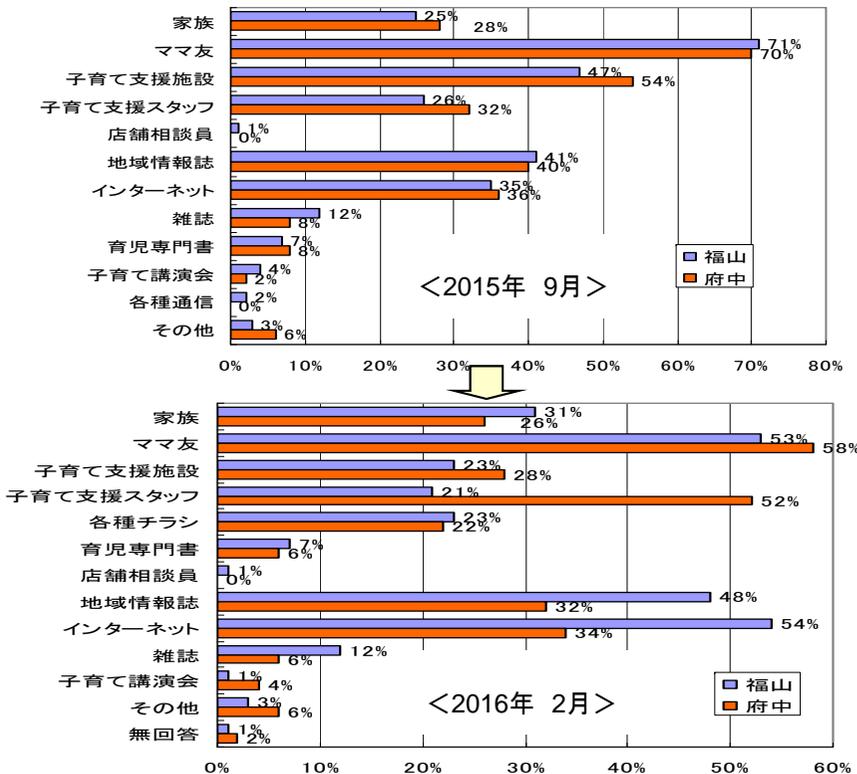
次いで、子どもの行動についての数値が高い。情報が多く入る中、「障がい」に関して心配する声も高い。また、アンケートの回答者の9割以上が母親である事から、毎日の食事についての悩みも多くあがっている。

②子育て支援施設からの情報提供

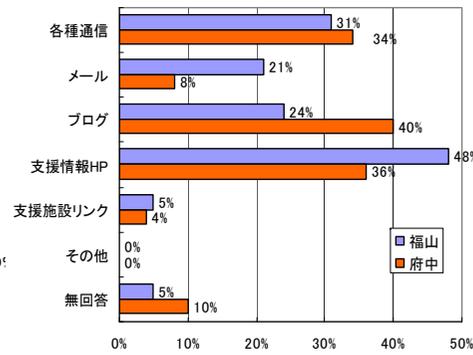
Q、取り上げて欲しい情報の内容



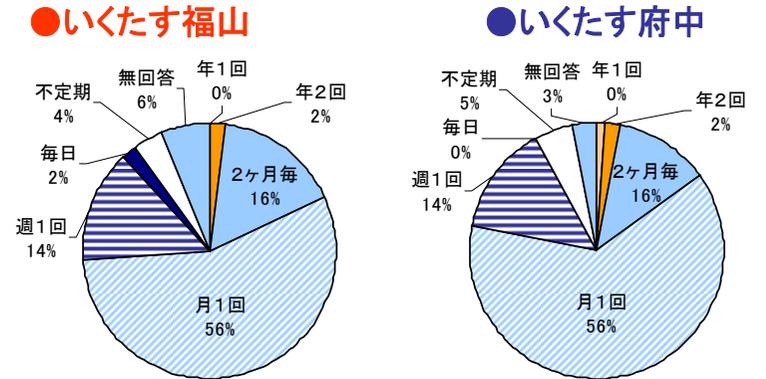
Q、子育て情報入手先



Q、希望する情報提供方法



Q、希望する情報提供の頻度



<分析>

現代の保護者には、ネットは欠かせないものであり、情報収集の方法として大きな媒体となっている。しかし、各種通信についても多くの方が希望しており、印刷済みのものは家庭に貼って確認、その都度調べる事に対しては、スマホ等に対応しているのかも知れない。

ブログが一番身近なSNSで、様子が細やかにわかり、細やかに更新されているため、良く見られているので有効な手段だと思う。

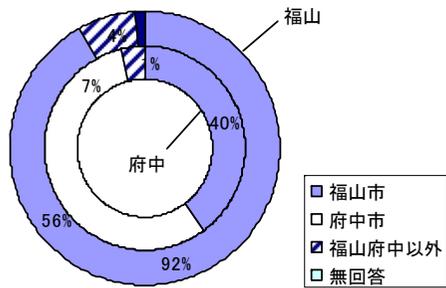
希望の情報の内容としては、子どもの遊ぶ遊びや食事内容、遊び場など子どもとの関わりに対しての細やかな内容である。悩みについても食事やしつけ方法などのポイントが高くなっており、多くの保護者が子ども中心の生活をし、それが充実できるような方法の一つとしての情報を得たいと考えているのではないかと推察される。

<課題>

地域型保育施設についての情報は、福山・府中どちらも希望は上がっていないが、子ども・子育て新制度が始まったばかりであり、これも含めて新制度、及び保育園・幼稚園・認定こども園・その他の保育施設の情報(特に入園、一時預かりの空き情報)を集約し、その他の子育てに関わる全ての情報(予防接種・あそび場紹介等々)をリンクする形で公開する事が求められる。

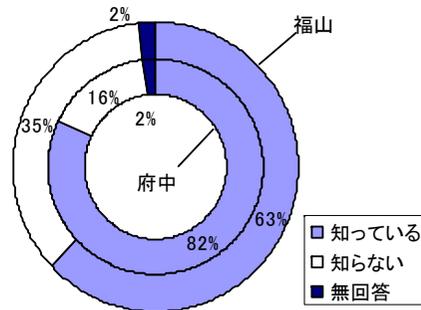
③地域の子育て支援施設について

Q、住んでいる地域

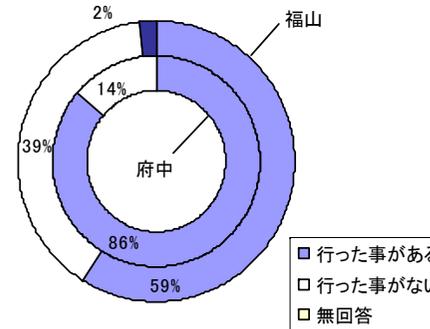


Q、最寄の保育所・認定こども園・地域型保育施設について

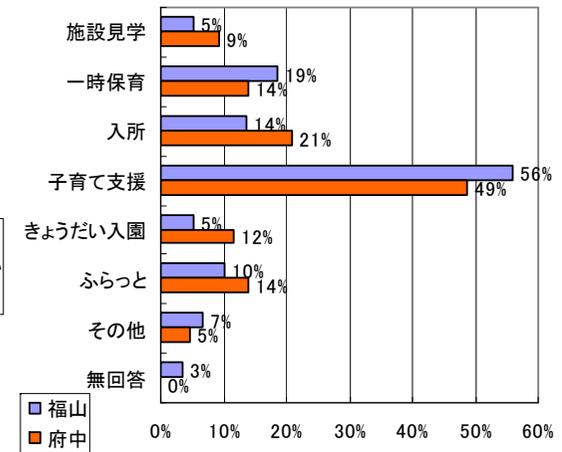
Q1、知っているか



Q2、行ったことがあるか



Q3、行った目的



<分析>

福山と府中の利用者における、保育所、認定こども園、地域型保育施設の認知度の差が明らかになった。福山市は、保育施設が120施設以上あり、無認可保育施設も10カ所以上、幼稚園も公私立あわせると30カ所以上ある。これに対し府中市は、保育所が12カ所、幼稚園が1園であり、その情報は行きわたりやすい。ただ、それは保育施設は家族の就労を目的とした施設との認識であれば、就労を考えない家庭にとっては、必要だと思わないかもしれない。

保育施設が、子育て支援施設として理解され機能しているか、適切に情報が行きわたっているかは検証し、今まで継続的に提唱してきた子育てのための情報提供の方法を考える必要がある。

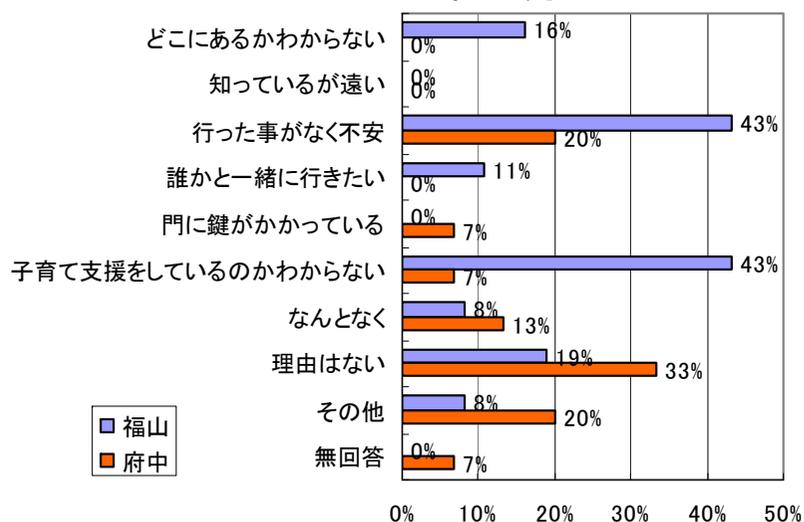
また、保育施設自身も広く地域に開放し、施設の行事や子育て支援の活動情報を子育て家庭に効果的発信する必要があると感じる。行ったことのある保護者は、圧倒的に子育て支援を目的にしており、その情報が正しく伝わる事により、子育てにおける相談窓口がより広くなり、自分の家庭にあった場や今後の子どもの保育について考える材料となる。

入所直前の時期に園開放や体験型保育を実施する事もあるが、一年を通して施設の特徴を知っていただく意義は大きい。

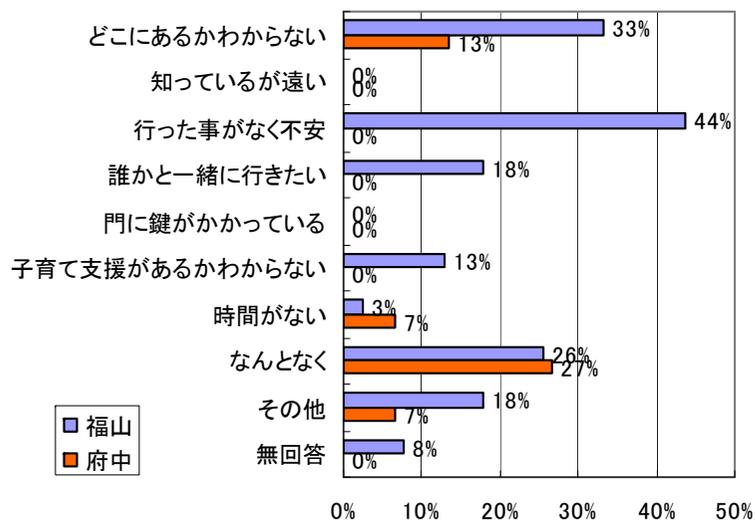
子育て家庭にとって、より多くの保護者や子育て支援者と関わり、自分なりの子育て方法について考え実践できるように、保育所、認定こども園、地域型保育施設それぞれが役割を考え、広く情報発信していく必要がある。

Q、保育施設になぜ行った事がないか

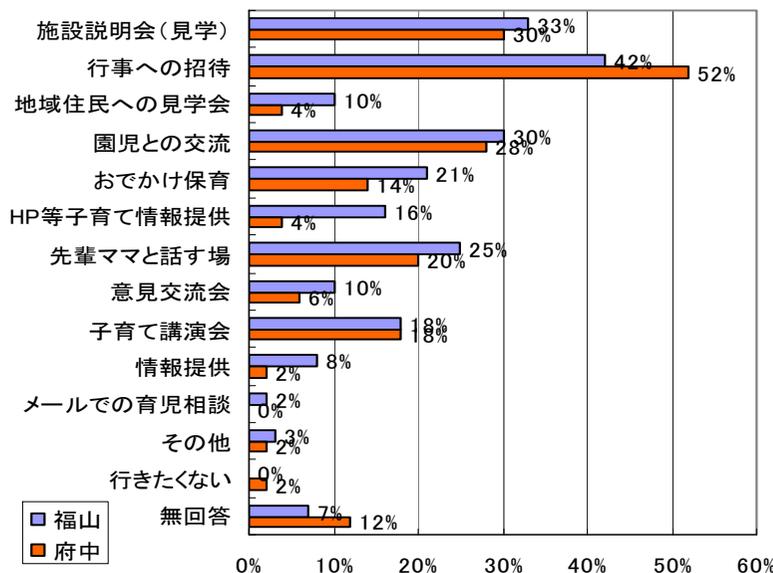
<2015年 9月>



<2016年 2月>



Q、なにがあれば行ってみたいか



<分析>

福山と府中の地域差が顕著に表れた。

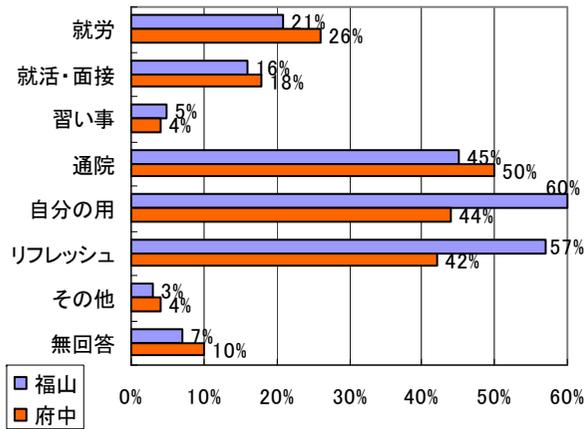
行ったことのある人は、子育て支援活動やサークルなどに参加され、一度行くと次も行きやすくなるのだと思う。しかし、行った事のない人の理由は、「行った事が無く不安」「なんとなく」と最初の一步を踏み出すまでに、時間と勇気が必要であることを意味している。

府中は、子育て支援施設の存在は知っており、今回のアンケート回答者のほとんどが行ったことがあり、施設もどこにあるかほとんどが知っていた。

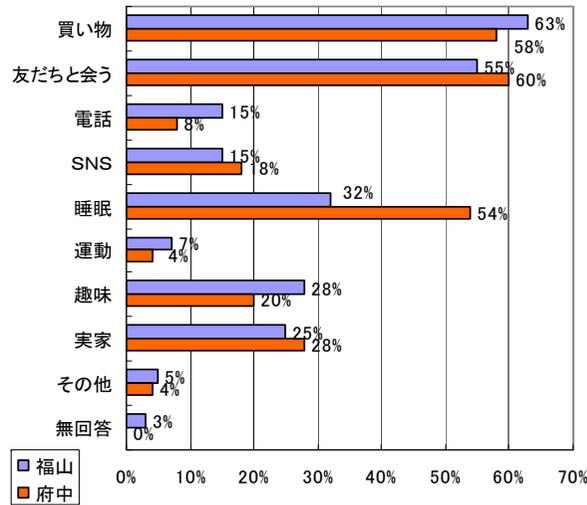
行った事のない理由に、福山・府中共に「なんとなく」が多く上がっており、何か機会があればその姿は変わってくると思われる。施設見学や、行事招待等施設側からのアプローチがあれば良いのではないかと。

また、そのアプローチを気軽にみる事が出来るSNSの利用方法を考えたい。

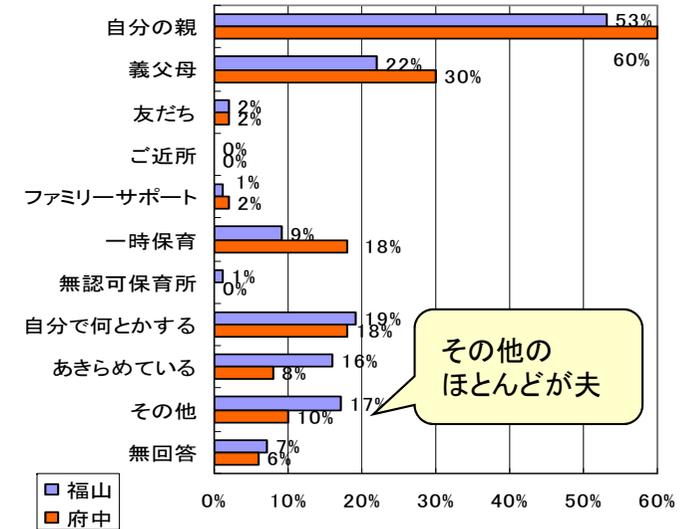
Q、どんな時に子どもを一時的に預かって欲しいか



Q、リフレッシュ方法



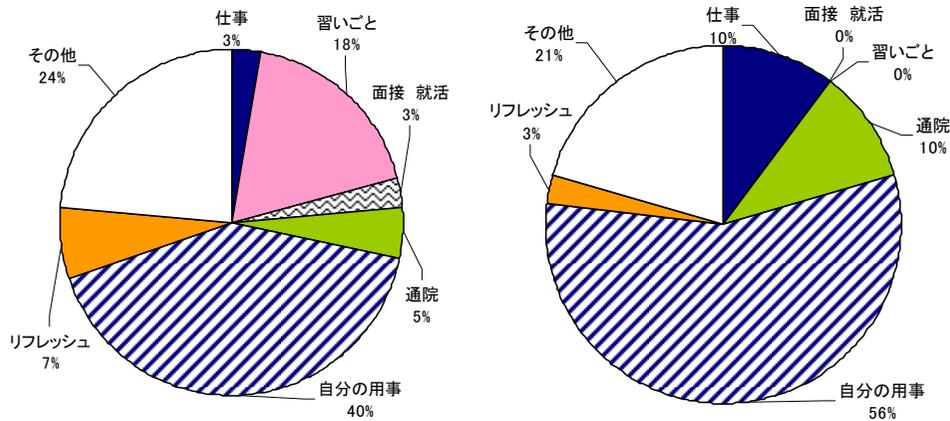
Q、解消する際に頼れる人はいるか



<いくたす一時預かり 実際の利用状況>

●いくたす福山

●いくたす府中



<分析>

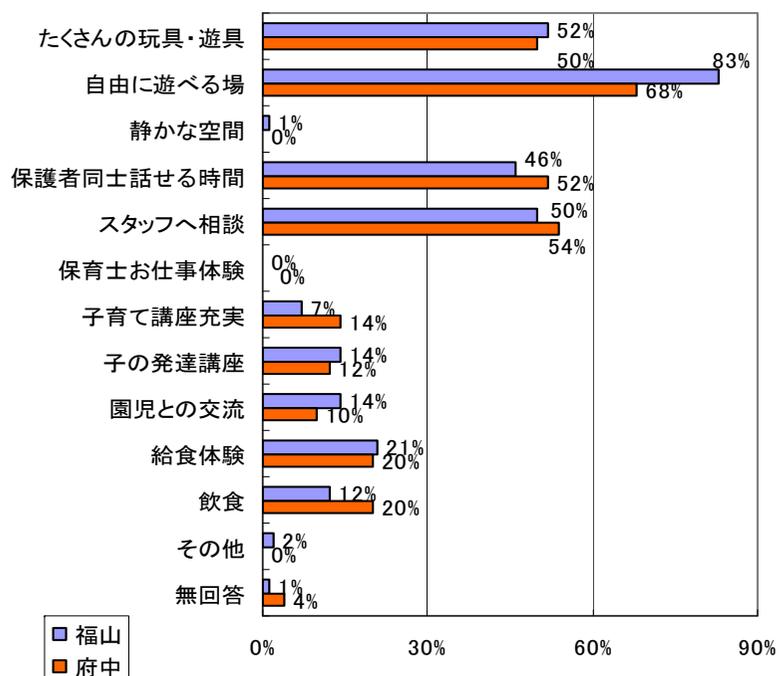
一時預かりについては、アンケートからも普段の保護者との会話からも、希望通りに対応できていない現状がみられる。一時預かりを希望する理由について、いくたすの預かり利用時の理由と同じくして尋ねた。

いくたすでの預かりは3時間までで、時間的に就労には対応しにくいので、3時間利用の希望度合いもあまりなく、実際の利用状況も高くない。また、商業施設内という事もあり、自分の用事としてリフレッシュを兼ねて買い物(特に自分のものや季節の贈答品)を希望される方が多くなっている。短い時間でも自分一人の時間が持てる事や、子どもとの生活以外の時間を持つ事が、次への活力になる事は明らかである。

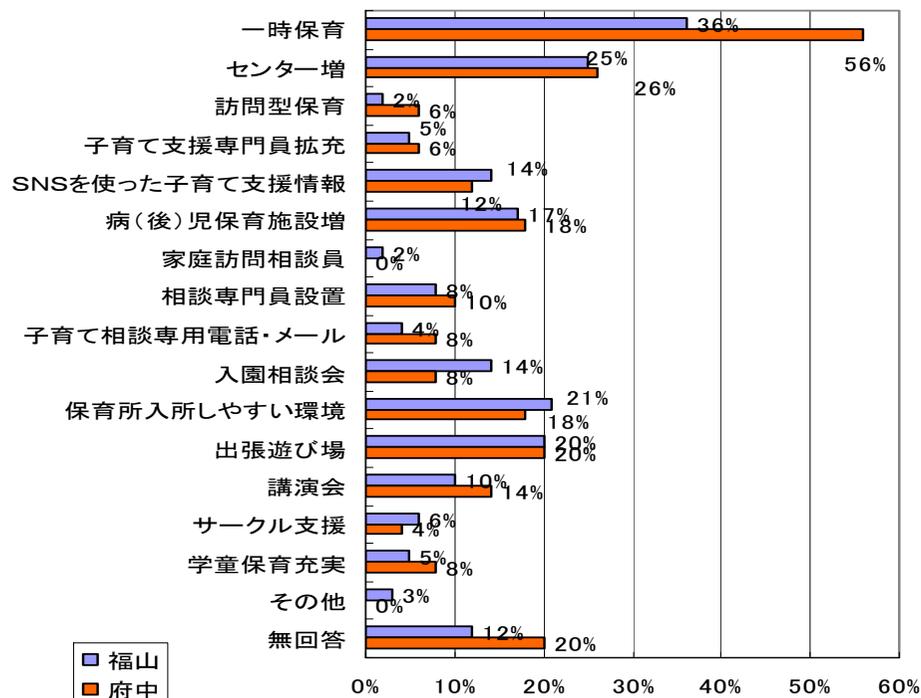
核家族化が進む現代では、家族がその役目を担うことが難しいのであれば、社会がそれを確立する体制作りが急務である。

その解消方法について調べると、やはり家族の協力体制のもとに時間をとっているが、「その他」の割合も高く、そのほとんどが配偶者である事から、夫婦で協力し、いたわり合いながら子育てをしている現状も見取れた。

Q、子育て支援施設に望むもの



Q、期待する子育て支援内容



<分析>

子育て支援施設には、「たくさんの玩具・遊具」があり、「自由に遊べる」「保護者同士話せる」空間が望まれている。子ども同士の関わりももちろんであるが、やはり、保護者同士の情報交換の場である事に違いはない。

これに、専門職である保育士や相談員の配置がある事で、より安心感をもって子育てができると思う。

最近「どうしたらいいか」から「～してもいいか」と自分の意志を持ちながら戸惑うなかで、正解を求める声も少なくない。

子育てに正解はないものの、自分の中で納得したい気持ちの表れではないか。

期待する子育て支援内容としては、「一時預かり保育」の充実を先頭に、「病後児保育」「入所しやすい環境」と続き、働く事を見据えて望む環境と考える。子育て支援施設に行った事のない人の割合が、福山で4割、府中も1割あり、きっかけ作りの1つとして、施設から出向いて支援をする「お出かけ型」としての出張遊び場の希望数値も高くなっている。

前回のアンケートで、24時間メール相談対応や駆け込み寺的な相談窓口(電話、メール)を希望する人が少数あったが、今回の対象者の中にはあまりみられなかった。

しかし少数派であろうとも、地域の子育て家庭のすべての子どもが健全な成長をして行く為の環境について、深く考えていきたい。

(7) 広島県子育てサポートステーションいくたすの成果と課題

●いくたす福山

<成果>

- ①自動車での移動の多い福山市市民にとって駐車場問題は大きく、商業施設の立地としてこれをクリアする申し分ない場所にあった為、多くの市民に認知された。また、スペースに関しても利用しやすい場であった。
- ②公共性を強く意識した子育てに関する情報を発信する事により、さまざまな家庭状況に合わせた助言ができた。また、スタッフ自身も支援者として大きなスキルアップの場となった。

<課題>

- 今後福山市の地域子育て支援拠点事業となる事を踏まえ、拠点同士の繋がりを強固にし、利用者主体の支援内容にしていく。
- SNSをつかった情報提供のかたち作り。

●いくたす全体を通して

<成果>

- ①広島県の事業として、違った角度から子育て支援について考え、商業施設内に「つどいのひろば」「子育て相談」「一時預かり」の事業をすすめるなかで市民に広く認知されたと同時に、市の地域子育て支援拠点事業として継続する体制が整いはじめた。
- ②広島県の事業としての認識を持ち、さまざまな県の取り組みについて情報提供をした。スタッフ自身も幅広く子育てにおける情報を収集する事により支援者としてスキルアップが達成できた。
- ③子育て支援担当者研修を実施するにあたり、参加施設を市内の保育施設と限定せず、広く備後地域の主な子育て支援施設とした事で、子育て支援者同士の「つながりの芽」を広げることができた。

<課題>

- ①保育士の不足が指摘される中、保育士復帰プログラムによって保育士を掘り起こす体制作りが急がれるが、子育て支援担当者も同様に継続的に育成できる仕組みが必要である。
- ②商業施設内の立地を生かし、保育所、認定こども園内での地域子育て支援センターにはない幅広い視野を意識した活動内容の工夫、および各種団体とのコラボ企画がもっと行われて、子育て支援が必要なひとの身近に感じられることが必要である。

●いくたす府中

<成果>

- ①就学前の子どものみならず、幅広い年齢のこどもとの利用が出来る事で、長いスパンでの子育て環境の変化や子どもの成長に合わせ、見通しを持った助言ができた。
- ②福山市北部地域の子育て世代に対しても、商業施設内の立地から市外の親子が利用できる柔軟性のある子育て支援施設となった。
- ③府中市らしさを常に考え、木育活動を積極的に取り入れるなかで親子3世代にわたり、昔からのあそびを楽しめた。

<課題>

- 府中市の道の駅の進出を控え、地域のさまざまな子育て支援施設が協力する中で、共通のイベントなどを計画実施する事で、より地域色豊かで保護者の立場に立った子育て支援内容を検討したい。

(8) 今後の展望

① 広島県子育てサポートステーション事業から、地域子育て支援拠点事業へ

- 2箇所とも、地域子育て支援拠点事業として継続するので、保育施設と一体的に運用する中で、より地域に密着した活動内容に変換するなかで、今まで培ってきた利用者との関係を継続する。
- 地域性や商業施設内の立地をより意識して、他にはない「いくたす」らしい活動内容としたい。

② 子育て支援者同士をつなげるための継続的なアプローチ。

- 子育て支援者同士が支え合う中で、支援者自らが企画する研修会を立ち上げていきたい。
- 常に目標や課題をもって日々の支援を行い、地域の独自性を大切にしながら共通の研修テーマをあげることで、「子育て支援」について深く考えたい。
- 支援者は保育士だけではなく、さまざまな分野の専門家とのつながりも大切にするべきである。その為にも、今年度から始まった利用者支援事業の大枠のなかで、各施設の支援者と相互に連携をとり、それを基にした早期のネットワークづくりが必要と考える。

③ 親同士が選んで繋がる形と、その体制作り。

- 「子育ての場」に保護者が行きやすくなるための「情報提供の方法」を改善したい。(現在子育て中の保護者のニーズ調査をし、定期的に分析することも大事である。)
- 「あつめる」のではなく、「あつまる」環境について幅広い保護者の年齢層で意見を出し合い、活動内容や環境構成の改善をしたい。